

問8 (ア) 1 (イ) 4 (ウ) 2

問8 会話文読解

(本文の日本語訳)

ハヤト、マナミ、ルーシーは中学生です。彼らは自分たちの将来について話しています。

ハヤト：今までに将来について考えたことはあるかな、マナミ？

マナミ：もちろん。私は看護師になりたいわ。私の祖母は昨年3か月間、私たちの市の病院に入院していたの。その看護師さんたちはとても優しくかったので、私は彼女たちのようになりたいと思ったの。

ルーシー：看護師はとても重要な仕事だわ。

マナミ：あなたはどのな、ルーシー？ あなたは何になりたいの？

ルーシー：私は教師になりたいわ。私はこれまでずっと教えるということが好きなの。私は妹が宿題をするのをよく手伝っているわ。

ハヤト：それはとてもいいことだね。ほくは幼い頃、夢は警察官になることだったけど、今はゲームクリエイター（考案者）になりたいと思っているんだ。ほくはテレビゲームをするのが大好きで、みんなのためにももしろいゲームを作りたいんだ。

マナミ：まあ、すてきね。ねえ、2つの表を見て。これらは中学生の将来の夢を示しているわ。1つの表は男の子について、もう1つのは女の子についてよ。多くの女の子は「パティシエ」または「美容師」になりたいと思っているわ。

ハヤト：「ゲームクリエイター」になることは男の子で3番目に人気があるね。

ルーシー：「教師」になることは男の子にも女の子にもそれほど人気がないことに驚いているわ。それは女の子にとっては「看護師」や「医者」ほど人気がないわ。

その時、彼らの英語の先生のウェルズ先生が彼らのところにやって来ます。

ウェルズ先生：みなさん、こんにちは。あなたたちは興味深い話題について話していますね。

ハヤト：こんにちは、ウェルズ先生。先生はずっと教師になりたいと思っていたのですか？

ウェルズ先生：子どもの頃は、プロのテニス選手になりたいと思っていました。多くの小さな子どもたちは一度はプロの運動選手になることを夢見ると思います。

ルーシー：そうですね。表は、プロの運動選手が男の子に最も人気があることを示しています。では、なぜあなたはあなたの考えを変えたのですか？

ウェルズ先生：第一に、私はすばらしいテニス選手ではありませんでした。私のテニスクラブでは、他の多くの選手が私より上手でした。しかし、私は自分にとって良いものを見つけたのです。

マナミ：教えることですか？

ウェルズ先生：その通りです。私は友達の宿題を手伝いました。彼らは私にたくさん感謝してくれて、私は本当にいい気分になりました。

ハヤト：じゃあ、それはまさにルーシーのようですね。

ルーシー：はい、助けを必要としている人を助けるのが好きなんです。

ウェルズ先生：ルーシー、学校に行けない子どもたちについて今までに聞いたことがありますか？

ルーシー：いいえ、一度も聞いたことがありません。それについてもっと教えてもらえますか？

ウェルズ先生：世界には発展途上国がたくさんあることを知っていますね？ それらの国では、多くの子どもたちが学校に行けません。なぜかわかりますか？

マナミ：彼らにはお金がないからですか？

ハヤト：それと、彼らは家族を助けるために働かなければなりません。

ウェルズ先生：人ともその通りです。彼らの親が働いている間に、子どもたちは弟や妹たちの世話をしなければなりません。彼らはみなさんよりもずっと若いです。また、彼らには十分な数の教師がいません。

ルーシー：ああ、それはひどいですね。私たちは彼らのために何ができますか？

マナミ：多くの他の国が彼らを助けようとしていると思います。学校や病院を建設するためにそれらの場所にボランティアを送る組織がたくさんあります。彼らはまた、発展途上国の人々がきれいな水を手に入れるのを助けています。

ハヤト：きれいな水？

ウェルズ先生：はい。発展途上国では、学校に行けない子どもたちがいます。なぜなら彼らは家族のためにきれいな水を手に入れなければならないからです。彼らはバケツを持って、川まで何マイルも歩き、そして水を持ち帰ります。彼らは朝から夜までそのことをするのです。

ルーシー：ああ、そういう子どもたちがきれいな水を簡単に手に入れることができれば、学校に行けるかもしれません。

ウェルズ先生：そうです。他のことも変更する必要がありますが、それらの地域にきれいな水を供給することはとても重要です。

ハヤト：今、ほくは学校に行くことができるのは幸運だとわかりました。

ウェルズ先生：良い点ですね、ハヤト。

ルーシー：私はさらにもっと教師になりたいと思いました。私はそれらの発展途上国に教えに行きたいです。何かを学ぶことは楽しいんだと彼らに示したいと思います。

マナミ：それはすばらしい考えね、ルーシー！ 私はあなたがそれをする事ができるといいなと思います。

ルーシー：ありがとう、マナミ。